

校長通信（第5号）

令和7年10月15日
東京都立田無高等学校
校長 長嶋 浩一

第2学年第2回保護者会 校長あいさつ

保護者の皆様、本日はお忙しい中、二年生の保護者会にご出席いただきありがとうございます。
二年生は今、学校生活の中心を担い、そして進路に向けて準備を本格化させる大切な時期を迎えています。
三年生になれば、受験や将来の選択という大きな壁に直面します。その意味で、これからの一年間が、お子様の未来を左右すると言っても過言ではありません。

しかし、現状を見ると、まだ「誰かがやってくれるだろう」「まだ本気にならなくてもいいだろう」といった甘えや依存傾向が残っている生徒もいます。課題を後回しにしたり、生活習慣を乱したり——。これを家庭が容認してしまえば、子どもは変わるきっかけを失ってしまいます。

強調したいのは、家庭での姿勢が子どもの自立を大きく左右するということです。学校がどれほど指導しても、家庭が支えなければ成果は生まれません。逆に、ご家庭が毅然とした姿勢を示せば、子どもは必ず変わります。

「厳しさ」とは、単なる突き放してではありません。やるべきことをやらなければ叱る、しかし同時に「あなたならできる」と信じる言葉をかける。失敗した時には、すぐに助け舟を出すのではなく、どうすればよかったかを一緒に考えさせる。——このように、厳しさの中に温かさを込める関わりが、子どもを本当の意味で成長させます。

少し古いドラマですが、『陸王』の一場面をご紹介します。老舗の足袋屋「こはぜや」が会社の存亡をかけ、レース中に負傷し途中棄権した一人のランナーの再起を支えるため、新しいランニングシューズ『陸王』の開発に挑みました。会社は幾度も危機にさらされました。そのような状況で、「こはぜや」の社長は社員にこう言いました。

「挑戦することこそ意味がある。失敗してもいい。挑戦したこと自体が誇りになる。」

その後、そのランナーは、マラソンレースに復帰し、『陸王』を履きライバルとのデッドヒートの末、優勝の栄冠をつかみました。インタビューでは苦しい時に自分を支えてくれた「こはぜや」への感謝の気持ちを伝えました。『陸王』は大ヒットし、「こはぜや」は企業規模を拡大し、大躍進を成し遂げました。

「挑戦することこそ意味がある。失敗してもいい。挑戦したこと自体が誇りになる。」

これはまさに高校生にも当てはまる言葉です。挑戦しなければゼロのままですが、挑戦すれば結果がどうであれ、経験と自信が残ります。

今、本校の生徒たちは、英検への挑戦、部活動での勝負、そして探究活動での発表や議論など、それぞれに挑戦の機会をもっています。

英検 S-CBT は、合否だけではなく、世界基準の **CEFR スコア** が与えられます。合格できなくても、**英語4技能の力が数値として残ります**。つまり、挑戦するだけで次の目標が明確になるのです。多くの大学等ではこの **CEFR スコア** を求めています。進学だけではありません。現代のグローバル社会において、**英語の力は企業内での昇進やビジネスチャンスを広げるために不可欠**なものとなりつつあります。

部活動も同じです。勝てる保証はなくても、大会に挑むことでしか得られない悔しさや達成感があります。探究活動も同様です。調べて、考えて、仲間と議論し、発表する。「挑戦」なくして成長はありません。

私は、**挑戦することを避けるのではなく、挑戦を重ねて失敗から学び、粘り強く自分を鍛えていくことこそが**、この時期の最大の学びであると考えています。

保護者の皆様も、ご家庭でお子様が挑戦から逃げず、一步を踏み出すよう背中を押していただきたいと思えます。**挑戦を重ねた経験は必ず将来の力となり、受験や社会での大きな武器**になるからです。

繰り返しになりますが、締め切りまでわずかな英検の申し込みも含め、ぜひ挑戦の機会を逃さないよう、後押しをお願いいたします。